



目に見えない人の心を描くホラーの皮膚感覚は細密画を動かせる画ニメだからこそ表現できた

エコエコアザラク——この奇妙な呪文をタイトルに冠した本作の来歴は、謎に満ちている。

『エコエコアザラク』の名が最初に登場するのは今から30年以上も昔、1975年のことだ。一時は児童部数でマガジン、サンダー、ジャンプを抜いてトップに立っていた少年チャンピオンの連続漫画として始まったのが、『エコエコアザラク』だった。作者の古賀貢一は、水木しげるや柳田國男とともに雑誌漫畫から少年少女漫畫へと転進した作家の一人で、その作風はもともとの少年漫畫家に比べてどことなく陰を帯びている。

漫画『エコエコアザラク』の初回タイトルは「恐怖の黒魔術」。主人公の黒井ミサは辻占い師

として登場し、学校帰りの小学生に「偉大な黒魔術あなたの望みをかなえてあげるわ」と欲望の充足をそそのかす―その筋立てと描写的残酷さから、当時の小学生を恐怖に陥れたことは想像に難くない。謎の中学生、黒井ミサを中心とした学園恐怖漫画となった2話目以降も恐ろしさは変わらず、衝撃的な絵がちばり込まれた原作漫画は大反響を巻き起こした。本作に収録した「変身」からも、その凄まじさの一端がうかがえる。

時代にあわせてコメディ風味のオカルトサスペンスとなった『エコエコアザラク』は、⑧年代の到来とともに連載を終了するが、⑨年代になり突如『エコエコアザラクII』として復活する。

世紀末という時代の暗さを反映したものか、黒魔術師として凄みを増したミサの活躍が描かれるのが、本作に収められた「除霊」だ。

1995年、吉野公佳主演で映画化されるるすぐさま続編が作られるほどのヒットとなり、1997年には、黒井ミサに扮した佐伯日菜子の評判を高めたテレビドラマ版『エココアザク』が制作される。再開された漫畫も1999年までの長期連載となり、その後も、加藤夏希、上野なつはどうしても動きが必要だと感じた古賀は、④を越えて初めてMacintoshを手に皮膚感覚を「動かすことでしか表現できない皮膚感覚を出したかった」と語る古賀が特に力を入れていたのが、両話に共通するミサの身体変化の面面だった。

ひ、近野成美といった錚々たるメンバーによって演じられたミサは、時代を越えて生き続けるキャラクターに成長した。中学生らしい目つきを見せることもあれば、顔色ひとつ変えずに悪魔と渡り合う――ミサの多面人格性は、移り変わりの激しい現代を生きる私達の精神の反映かも知れない。

2006年末の最新映画の公開と軌を一にするかのようにリリースされる本作は、もともと作者

